

第11回「視覚障がい者対応研修」を実施

～ 新入職員61名が受講 ～

大阪シティ信用金庫（本店 大阪市、理事長 高橋知史）は、2月19日（水）、新入職員を対象に「視覚障がい者対応研修」を実施しました。

当金庫では、障がいのあるお客さまが利便性や質の高いサービスをご利用いただけるよう、さまざまな取り組みを進めています。その一環として、視覚障がい者に関する正しい知識を学び、適切な対応方法を身につけることを目的に平成27年から毎年、本研修を実施し、今年で11回目となります。

当日は、大阪市社会福祉協議会と大阪市福祉教育語りの会から講師を招致し、受講した61名の新入職員は実演を交えた適切な介助方法や、講師による点字新聞の実物の読み上げを通じての情報収集ツールの大切さを学びました。続いて、当金庫事務部の職員による障がいのあるお客さまに配慮した事務の取り扱いや、サインガイドを使用した伝票の記入方法など実務に則した研修も実施しました。

新入職員は、「障がいのあるお客さまに対して気持ちよく金融サービスをご利用いただけるよう、自ら進んで声掛けをしたい」などと感想を語りました。

今回の受講で得た知識を生かし、障がいのあるお客さまに寄り添った親身な対応を実践し、誰もが利用しやすい店舗づくりに一層努めてまいります。

記

1. 概要

- (1) 実施日 令和7年2月19日（水）
- (2) 受講者数 61名
- (3) 講師 ・社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
由浅 悠 氏
・大阪市福祉教育語りの会
鈴木 昭二 氏、山本 美恵子 氏

2. 視覚障がいのあるお客さまに配慮した当金庫の主な取り組み

- (1) 視覚障がい者の代筆・代読の実施とサインガイド(自署いただく箇所がわかる型枠)の設置
- (2) 視覚障がい者対応ATMを設置
- (3) 視覚障がい者用 音声による来店案内システムを導入（一部店舗）
- (4) 点字ブロックの敷設、点字による取引記録明細、満期案内の発行等
- (5) 窓口振込手数料の引き下げ（ATM扱いと同額）



研修の様子



介助を実践する職員（左）

以上



本件はSDGs（持続可能な開発目標）の考えに基づいた取り組みのうち、右記の目標に寄与するものです。

